

# 木もれ陽の下、はしご湯で心もウキウキ。

## 入湯手形が大当り

阿蘇郡南小国町黒川温泉

ママさん特派員  
草原春美さん



まず地域を売り出す  
ことです。街に人気  
集まれば、自分達の  
旅館の繁栄に  
つながります。

世代交替したばかり。三十代を  
中心とした黒川の若い経営者たち  
は、異口同音にそう語ります。  
盛り上がっているのは意気だけ  
でなく、無論、夢もアイデアも。  
町並を美しく、街を活気づけた  
い。ゆくゆくは、石だたみを敷い  
て、手づくりベンチを置きたい。  
小国杉を利用した洒落た公衆トイ  
レもほしい。温泉街を流れる筑後  
川源流を子供中心とした遊び場に  
整備し、すべり台を置き、水遊び  
ができるように…。すずめ地獄周  
辺に遊歩道、自然  
の森での昆虫採  
集…などなど。  
聞いている

火の国阿蘇、雄大で素朴な自然には  
さまざまな話題があり、  
顔があります。  
火文字焼き、トロッコ列車、アスペクタ…  
そして露天ぶろの黒川温泉。  
ここで近頃、評判を呼んでいる  
入湯手形の人気の秘密を知りたくて、  
訪ねてみました。  
瀬の本高原から車で十分。  
山あいには、それぞれの  
温泉旅館の目印となる看板はなく、  
鮮やかな赤に白い文字の  
「日本一の露天風呂黒川温泉」の  
看板が一つ。  
温泉地のにぎやかな看板ラッシュを  
想像していた私は、ちよつと違った  
光景と出会いました。

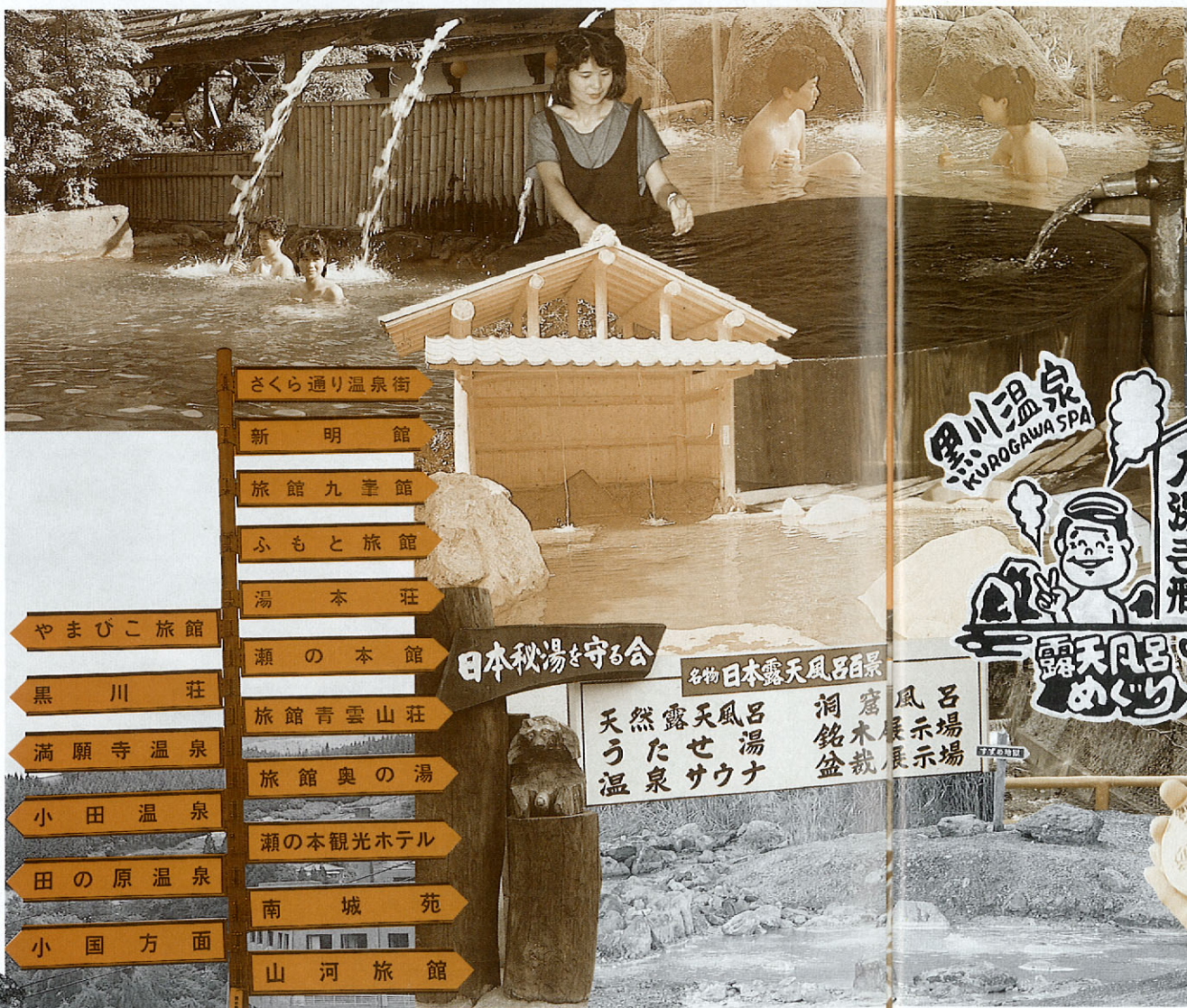
## 入湯手形、ついに二万枚突破。

以前から露天ぶろのある旅館に  
人気があったのを手がかりに、三  
年前から露天ぶろを設ける旅館が  
増え、今年七月で十七全部の旅館  
にできました。昨年五月、露天ぶ  
ろのない旅館に宿泊しても露天ぶ  
ろに入れるようにと思いついたの  
が、入湯手形。助け舟だったんで  
すね。小国杉の間伐材を利用した  
厚さ一センチ前後の板には、かわ  
いイラストが焼印され、一枚十  
円。三カ所の露天ぶろ巡りができ  
るこのことで人気急上昇。今年八  
月には早くも、発  
行数一万余枚を  
突破しま  
した。



## ゆかたにカタカタ下駄の音。なんともいい気持ちです。

さて、私もさつそく「はしご湯」。  
「はずかしい」と言いながらも心  
はウキウキ。太陽の下での入浴も  
また格別です。そよ風と一緒に虫  
の泣き声、頭にはさるすべりの赤



- さくら通り温泉街
- 新明館
- 旅館九聖館
- ふもと旅館
- 湯本荘
- 瀬の本館
- 旅館青雲山荘
- 旅館奥の湯
- 瀬の本観光ホテル
- 南城苑
- 山河旅館
- やまびこ旅館
- 黒川荘
- 満願寺温泉
- 小田温泉
- 田の原温泉
- 小国方面

い花びらが二つ三つ。こもれ陽が  
キラキラと輝き、透きとおったお  
湯がとてもきれい。

「職人にはまかせられませんが、石  
を運び木を植え、人手のいる時は  
みんなで助け合い、すべて手作り、  
自然との調和が大切なんです。」と  
いわれる通り、それぞれの旅館の  
特性を生かし趣向もいろいろ。

「掃除が大変だろうナー。」とち  
よつぱり主婦ごころ。うたせ湯に  
打たれ一曲でそうなおじさん。泊  
まるの。どうれしそなお嬢ちゃ  
ん。ゆかたにカタカタ下駄の音…

は、はきちがえても大丈夫と、す  
べての旅館が同じ物。ちよつとし  
た気配りがうれしく感じました。



だけで、私  
も自分の故  
郷のため  
に何か  
しな  
くて  
は…と  
いう、熱い想  
いが胸をか  
すめました。  
まさに、町お  
こし最前線とい  
つた雰囲気です。  
湯治か宴会  
か。温泉にも低迷の時  
がありました。  
しかし今では  
秘湯ブームに  
のって、人  
気を集め、若者  
の間ではひと  
つのファッショ  
ンなアイテム  
として人気を  
あつめています。  
つまり温泉  
も新しい感覚で  
見直す時代。  
この時代のチャ  
レンジを逃さず、  
新たな町おこし  
へと  
若いエネルギー  
を賭ける黒川に、  
頼もしい未来  
を感じました。